

# 目次

はじめに	岩田 力	i
<b>第 I 章 子ども学の基盤&lt;子どもに生きる・子どもと創る&gt;</b>		1
第 1 節 子ども支援とは	柴崎 正行	1
I. 日本の子ども支援の歴史		1
1. 7歳までは神の子の時代		1
2. 社会階層による子育ての違い		2
3. 温かな子ども観の成立		3
4. 西欧の近代的な教育制度の導入		4
5. 子どもへの専門的支援社会の到来		5
II. 子ども支援の基本		7
1. すべての基本は、人権の尊重とプライバシーの保護		7
2. 健康で安全な生活環境づくり		8
3. 早期発見・早期対応の大切さ		9
4. 子どもたちとの共感的な相互理解		10
5. 園内外の専門家との連携と協働		11
第 2 節 Children First	網野 武博	14
I. 子どもが生きること、子どもに生きることの意味		14
1. 生きることへのひたむきなエネルギー		14
2. Children First：まず子どもを尊び、子どもを中心に置く保育観		15
II. 子どもの最善の利益を考慮する保育		16
1. 子ども最善の利益		16
2. 保育所保育指針が示す子どもの最善の利益の考慮		17
3. 子どもの権利を保障するプロセス		18
4. 子どもの最善の利益を考慮する 4 段階		20

第Ⅱ章 特色ある子ども学の教育・保育	23
第1節 子ども芸術(表現)	23
I. 子どもの表現	保坂 遊 23
1. 表現の中で子どもは育つ	23
2. 表現とはなにか	23
3. 子どもの表現の自由	25
4. 保育者に求められる対話力と受容の理解	25
II. 音楽と子どもの表現	佐藤 邦子 26
1. 音楽の力	26
2. 音・音楽の要素	26
3. 子どもの発達と音楽表現	27
4. 子どもの音楽表現活動	28
5. 保育者に必要な音への配慮・音楽技能	29
III. 造形と子どもの表現	保坂 遊 29
1. 子どもの発達と造形表現	29
2. モノとの関わり	30
3. カリキュラムと教材	31
4. 表現における象徴性-現実性-想像性	32
IV. 身体と子どもの表現	池森 隆虎 33
1. 子どもの欲求と身体表現	33
2. 身体運動の分野で行われている表現活動/カリキュラムと教材	34
3. 個の表現と集団の表現	36
4. 活動意欲や表現力を高めるために/次世代の教育を見据えた 取り組み	36
V. 芸術と発達支援	37
1. アートが持つ力と社会的意義	保坂 遊 37
2. 発達支援としての表現活動	保坂 遊 38
3. 音楽を媒介とした発達支援	佐藤 邦子 39
VI. 創造性を育む保育	40

1. 日常における表現の総合性と総合的表現	池森 隆虎	40
2. 創造性は生きる力	保坂 遊	40
第2節 ESD(環境・持続可能な社会づくりのための教育)		45
I. 保育における子どもの科学性の芽生えを育む里庭の研究		
—自然教育・環境教育から持続可能な開発のための教育へ—		
	大澤 力	45
1. 保育における科学性の芽生えと里庭の定義		45
2. 子どもの自然教育、環境教育から持続可能な開発のための教育へ		49
II. 小さな昆虫との大きな出会い		55
1. 幼児期における科学との出会い	渡部 美佳	55
2. なぜ、昆虫か?		57
3. 保育所・幼稚園における昆虫を用いた指導事例		57
4. 一緒に生きていく		58
III. 保育における多文化理解の研究		
	LAMBRECHT, Matthias Immo	59
1. はじめに		59
2. 現在の日本における保育環境		59
3. 保育における多文化理解		60
4. 多文化事例を通して見た場合		61
5. 円滑な人間関係を作るための3つのポイント		61
第3節 健康保育(健康)	岩田 力・宮島 祐・細井 香	64
I. 健康の定義		64
II. 健康保育とは		65
III. 健康保育の必要性		66
IV. 健康保育の捉え方		67
V. 健康保育の内容		67
1. 健康支援		71
2. 健康増進		72
3. 疾病等への対応		73

4. 環境および衛生管理ならびに安全管理	74
5. 食育の推進	75
VI. 特別な配慮の必要な子どもへの対応	76
1. アレルギー疾患	76
2. 発達の障がい	78
3. 慢性疾患	80
VII. 対象施設別の配慮	82
<b>第Ⅲ章 特別支援教育</b>	84
第1節 気になる子ども	84
I. はじめに—気になる子どもとは	柳本雄次・野澤純子 84
第2節 障害の早期診断とそれに続く支援	86
I. 医療者として早期診断をする際の心得	宮島 祐 86
II. 発達障がいの診療の実際	
1. 医学的評価	88
2. 医学的対応	88
3. 保護者への対応	88
4. 保育園・幼稚園・学校への対応	89
III. 障害のある子どもの幼児期における心身発達と支援	野澤 純子 89
1. 知的障がいのある子ども	90
2. 自閉症のある子ども	91
3. ADHDのある子ども	94
IV. 就学前期の障害のある子どもの特別支援教育	柳本 雄次 95
1. 特別支援教育とは	95
2. 就学前期の教育課程の特徴	
—幼稚園・保育所の教(保)育と特別支援学校の自立活動	97
3. 地域における関係機関の連携による総合的な支援	98
4. 今後の就学前期の障害のある子どもの教(保)育の課題	99
付録	102

## 第IV章 保育の学びと実践の場としての教育・保育実習

—理論と実践の統合を図る—	106
第1節 子どもとは何か？	
—幼稚園・保育所・認定こども園の子どもを中心に—	
……………那須 信樹	107
I. “子ども”という存在の捉え方	107
1. 法的な枠組みから“子ども”を捉える	107
2. 各園の教育理念や保育理念から“子ども”を捉える	107
II. 生きる主体としての“子ども”の捉え方	108
1. 日々の生活の中で子どもの多様性を捉える	108
2. 子どもは“可愛い”だけの存在か	113
3. 子どもを捉える伝統的価値観からの脱却と新たな価値観の創造	
……………	113
第2節 保育者とは何か	115
……………小櫃 智子	115
I. 保育とは	115
1. 保育という用語	115
2. 保育の目的	115
3. 保育の基本	116
II. 保育者とは	117
1. 保育者の専門性	117
2. 省察的(反省的)実践家としての保育者	117
第3節 保育者としての適性を問う	119
……………守 巧	119
I. 保育者を志す者として(自分をよく知る)	119
II. 実習を通して学ぶ「理論と実践の統合」とは	119
III. “事実”との出会いを次の学びへ	123
執筆者一覧	126
おわりに	127
……………大澤 力	127